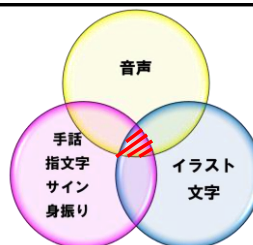
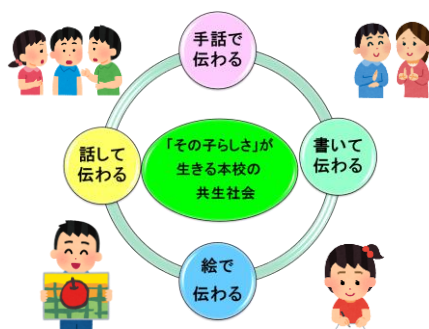
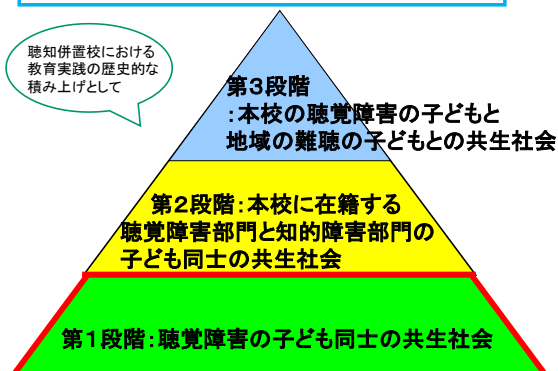


「その子らしさが生きる 共生社会の実現を目指して」



本校におけるインクルーシブ教育とは

聴知併置校における
教育実践の歴史的な
積み上げとして



伝える手段をたくさん知っていること、
自分が使える手段・相手に伝わる手段を
選択できることは、聴覚障害の子どもに限
らず、全ての子どもにとって大切である。

=UDの視点にもつながる

実践活動の今後に向けて

現在、私は、知的障害部門の担任をしている。
知的障害に自閉症を併せ有し、言葉での
表出がまだまだ難しい児童がいる。健聴児
のみのクラスにおいても授業の中で簡単な
手話サインを使っている。手話が言語理解の
手助けになったり、意思表示の手助けになる
ことをねらっている。

地域支援づくりへの提案

聴覚特別支援学校教員として、
エリアコーディネーターとの協働を
通して「その子らしさが生きる共生
社会の実現」を目指していきたい。
そして、発語が難しい知的障害児の
言語理解・意思表示手段として、
手話が有効であるという本校の教育
実践を地域に提案していきたい。